

＜2023年度 アスレティックトレーナー学科 シラバス＞

科目名	テーピング I	学年	1	単位数	2	コマ数	30(60時間)
講師名	出口 光子						
教科目標	アスレティックトレーナーとして競技者のパフォーマンスを安定させるためにも外傷予防、応急処置、再発予防に備えた身体各部のテーピングの知識と技術を習得する。						
講 義 内 容	1	テーピングの定義と目的を理解する					
	2	テーピングを実施する際の準備と注意事項を理解する①					
	3	テーピングを実施する際の準備と注意事項を理解する②					
	4	アーチテーピング1の注意事項の理解と技術を習得する					
	5	アーチテーピング2の注意事項の理解と技術を習得する					
	6	母趾・踵部のテーピングの注意事項の理解と技術を習得する					
	7	足関節捻挫に対するテーピング（基本のテーピング）技術を習得する①					
	8	足関節捻挫に対するテーピング（基本のテーピング）技術を習得する②					
	9	足関節捻挫に対するテーピング（基本のテーピング）技術を習得する③					
	10	足関節捻挫に対するテーピング(クローズド・バスケットウィーブ)技術を習得する					
	11	足関節捻挫に対するテーピング(伸縮テープを併用した方法)技術を習得する					
	12	足関節捻挫に対するテーピング(オープン・バスケットウィーブ)技術を習得する					
	13	足関節捻挫に対するテーピング（底屈制限）技術を習得する					
	14	足関節捻挫に対するテーピング（背屈制限）技術を習得する					
	15	足関節捻挫に対するテーピング技術の復習					
	16	アキレス腱のテーピング技術を習得する					
	17	下腿部肉離れ・シンスプリントのテーピング技術を習得する					
	18	大腿部の肉離れ・打撲のテーピング技術を習得する					
	19	股関節の外転・伸展制限のテーピング技術を習得する					
	20	腰部のテーピング技術を習得する					
	21	腸骨稜打撲に対するテーピング技術を習得する					
	22	肋軟関節分離に対するテーピング技術を習得する					
	23	下腿・大腿・股関節・腰部に対するテーピング技術の復習					
	24	膝関節内側側副靭帯損傷に対するテーピング技術を習得する①					
	25	膝関節内側側副靭帯損傷に対するテーピング技術を習得する②					
	26	膝関節外側側副靭帯損傷に対するテーピング技術を習得する①					
	27	膝関節外側側副靭帯損傷に対するテーピング技術を習得する②					
	28	膝関節前十字靭帯損傷に対するテーピング技術を習得する①					
	29	膝関節前十字靭帯損傷に対するテーピング技術を習得する②					
	30	膝関節に対するテーピング技術の復習					

評価方法	授業内で部位毎に実技評価を実施し、受講態度も加える。		
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80~89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70~79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60~69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
教科書 参考図書 及び	書籍名	著者名	発行所
	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6		日本スポーツ協会
備考	【担当教員の実務経験等】 整形外科にて5年間勤務。外傷障害に対するテーピングを含めた運動指導を行う。		

＜2023年度 アスレティックトレーナー学科 シラバス＞

科目名	トレーナー概論・演習	学年	1	単位数	1	コマ数	15(30時間)
講師名	高橋 小夜利						
教科目標							
アスリートのコンディショニングを統合的な視点を持ってサポートする正しい知識や優れた技術を習得するための意義を理解する。							
講 義 内 容	1	アスレティックトレーナーの歴史					
	2	アスレティックトレーナー制度					
	3	アスレティックトレーナーの任務と役割					
	4	アスレティックトレーナーの業務①					
	5	アスレティックトレーナーの業務②					
	6	アスレティックトレーナーの活動①					
	7	アスレティックトレーナーの活動②					
	8	アスレティックトレーナーの活動③					
	9	医科学スタッフの構成と役割					
	10	スポーツドクター、コーチとの連携・協力					
	11	アスレティックトレーナーの組織と運営					
	12	競技者のコンディショニングに関するデータの管理					
	13	アスレティックトレーナーの立場と倫理					
	14	アスレティックトレーナーと法的諸問題					
	15	まとめ					
	16						

評価方法	課題や終講時試験で評価する。						
評 価 基 準	(G 新 P A 評 価)	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				}	単位
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					
教 科 書 及 び 参 考 図 書	書籍名	著者名		発行所			
	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト1			日本スポーツ協会			

備考

【担当教員の実務経験等】

整形外科のリハビリ科11年勤務。冬季競技トレーナー活動15年。スポーツ専門施設でのアスレティックリハビリテーション5年担当。選手の状態評価やアスリハ、コンディショニング、テーピン

＜2023年度 アスレティックトレーナー学科 シラバス＞

科目名	検査・測定と評価 I	学年	1	単位数	1	コマ数	15(30時間)
講師名	高橋 小夜利						
教科目標 アスレティックトレーナーに必要な評価、検査測定の方法およびスポーツ動作の観察と分析力を習得する。							
講 義 内 容	1	機能評価のプロセスと評価に必要な検査測定を理解する					
	2	機能評価に基づく目標設定とプログラムの立案を理解する					
	3	姿勢・身体アライメント・筋萎縮の観察と計測を理解する					
	4	関節弛緩性検査の目的と意義及び検査方法を理解する					
	5	測定方法の実際（関節可動域測定①）					
	6	測定方法の実際（関節可動域測定②）					
	7	測定方法の実際（関節可動域測定③）					
	8	測定方法の実際（関節可動域測定④）					
	9	筋タイトネスの検査測定方法を理解する					
	10	徒手筋力検査の目的と意義および計測方法を理解する					
	11	測定方法の実際（徒手筋力検査①）					
	12	測定方法の実際（徒手筋力検査②）					
	13	測定方法の実際（徒手筋力検査③）					
	14	測定方法の実際（徒手筋力検査④）					
	15	まとめ					
	16						

評価方法	課題や終講時試験で評価する。			
評 価 基 準	(G P A) 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		} 単 位 単 位
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
参 考 図 書	書籍名	著者名	発行所	
	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5		日本スポーツ協会	

備考

【担当教員の実務経験等】

整形外科のリハビリ科11年勤務。冬季競技トレーナー活動15年。スポーツ専門施設でのアスレティックリハビリテーション5年担当。選手の状態評価やアスリハ、コンディショニング、テーピン

＜2023年度 アスレティックトレーナー学科 シラバス＞

科目名	検査・測定と評価Ⅱ	学年	2	単位数	1	コマ数	15(30時間)
講師名	高橋 小夜利						
教科目標 アスレティックトレーナーに必要な評価、検査測定の方法およびスポーツ動作の観察と分析力を習得する。							
講 義 内 容	1	機能評価のプロセスと評価に必要な検査測定を理解する					
	2	機能評価に基づく目標設定とプログラムの立案を理解する					
	3	姿勢・身体アライメント・筋萎縮の観察と計測を理解する					
	4	関節弛緩性検査の目的と意義及び検査方法を理解する					
	5	測定方法の実際（関節可動域測定①）					
	6	測定方法の実際（関節可動域測定②）					
	7	測定方法の実際（関節可動域測定③）					
	8	測定方法の実際（関節可動域測定④）					
	9	筋タイトネスの検査測定方法を理解する					
	10	徒手筋力検査の目的と意義および計測方法を理解する					
	11	測定方法の実際（徒手筋力検査①）					
	12	測定方法の実際（徒手筋力検査②）					
	13	測定方法の実際（徒手筋力検査③）					
	14	測定方法の実際（徒手筋力検査④）					
	15	まとめ					
	16						

評価方法	課題や終講時試験で評価する。							
評 価 基 準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						} 単位認定 } 単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						
参 考 図 書 及 び	書籍名	著者名			発行所			
	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5					日本スポーツ協会		
備 考	【担当教員の実務経験等】 整形外科のリハビリ科11年勤務。冬季競技トレーナー活動15年。スポーツ専門施設でのアスレティックリハビリテーション5年担当。選手の状態評価やアスリハ、コンディショニング、テーピングに従事した経験をもと							

＜2023年度 アスレティックトレーナー学科 シラバス＞

科目名	テーピングⅡ	学年	2	単位数	1	コマ数	15(30時間)
講師名	高橋 小夜利						
教科目標 アスリートのコンディショニングを統合的な視点を持ってサポートする正しい知識や優れた技術を習得するための意義を理解する。							
講 義 内 容	1	アスレティックトレーナーの歴史					
	2	アスレティックトレーナー制度					
	3	アスレティックトレーナーの任務と役割					
	4	アスレティックトレーナーの業務①					
	5	アスレティックトレーナーの業務②					
	6	アスレティックトレーナーの活動①					
	7	アスレティックトレーナーの活動②					
	8	アスレティックトレーナーの活動③					
	9	医科学スタッフの構成と役割					
	10	スポーツドクター、コーチとの連携・協力					
	11	アスレティックトレーナーの組織と運営					
	12	競技者のコンディショニングに関するデータの管理					
	13	アスレティックトレーナーの立場と倫理					
	14	アスレティックトレーナーと法的諸問題					
	15	まとめ					
	16						

評価方法	課題や終講時試験で評価する。							
評 価 基 準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						} 単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						
参 考 図 書 及 び	書籍名	著者名			発行所			
	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト1					日本スポーツ協会		
備 考	【担当教員の実務経験等】 整形外科のリハビリ科11年勤務。冬季競技トレーナー活動15年。スポーツ専門施設でのアスレティックリハビリテーション5年担当。選手の状態評価やアスリハ、コンディショニング、テーピングに従事した経験をもと							